



OBARA REPORT ^{52nd}

第52期 第2四半期報告書

2009年10月1日 → 2010年3月31日

証券コード：6877

OBARA CORP.

この報告書に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

本社 〒252-1104 神奈川県綾瀬市大上四丁目2番37号
経営企画室 TEL: 0467-76-2000



この報告書は適切に管理された森林から産出された「森林認証材(FSC)」を使用し、環境に配慮した「大豆油インキ」を使用しています。

新しい技術で、もっと便利な明日へ

Creative technologies contributing to the world

OBARAグループは、抵抗溶接機器と精密研磨装置を主要製品とし、発展する世界経済の中で多様化する顧客ニーズに、蓄積した独自の技術で応えます。抵抗溶接機器は自動車産業、精密研磨装置はエレクトロニクス産業において用いられ、確かな品質とグローバルなネットワークにより、両基幹産業の生産活動を支えています。OBARAグループは、技術の革新を求め続け、新しい「もの作り」を通して社会の発展に貢献したいと考えています。

溶接機器関連事業

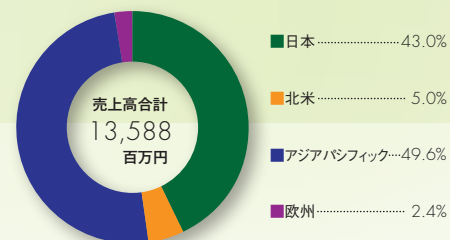
抵抗溶接機器は、薄い金属を高電流と高加圧で接合させるもので、主に自動車ボディの組立工程において活躍しています。OBARAグループは、溶接装置から消耗品までトータルな製品ラインナップを展開します。日本や欧米のほか、中国など長足の経済成長を見せるアジア地域に拠点網を持ち、各国の自動車産業に製品及びサービスを提供しています。

平面研磨装置関連事業

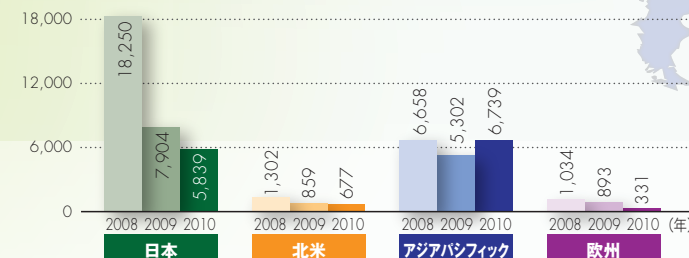
精密研磨装置は、エレクトロニクス材料の基板平坦化に多く用いられます。シリコンウェーハなどの基板に、微細加工に不可欠な基準平面を形成します。OBARAグループが培ってきた、研磨加工・装置製造・消耗副資材に対する統合技術力は、先端産業が抱える困難な技術課題に対し、新しいソリューションを提供し続けています。



所在地別売上高構成比



所在地別売上高推移



(注) グラフは各第2四半期累計のものであります。



代表取締役社長

新田 稔三

ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のお引立てを賜り、誠にありがとうございます。OBARAグループの2010年第2四半期連結累計期間の業績概況をご報告するにあたり、一言、ご挨拶を申し上げます。

当期間においては、昨年度から続いた景気調整にも緩やかな回復の兆しが見られ、当社グループの溶接機器関連事業及び平面研磨装置関連事業とも事業環境に明るさが見えてまいりました。そのような中、お客様それぞれのニーズへの細やかな対応に鋭意注力し、当社グループの業績としましては、売上高・営業利益・経常利益とも当初予想を上回る結果となりました。

なお、2010年度の第2四半期末配当金につきましては、1株につき10円とし、本年6月9日を支払開始日とさせていただきます。

世界経済の不透明感はまだ暫く残るようにも思われますが、未来に向けた技術開発を弛まず続け、当社グループの全てを変革しながら企業価値の向上に努めてまいります。

株主の皆様には、倍旧のご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

当第2四半期連結累計期間の連結業績について

当第2四半期連結累計期間は、当社グループと深く関わる自動車及びエレクトロニクス業界の生産の回復が力強いものとなり、設備投資においても、両業界ともアジア地域を主体に再開の動きが見られ始めました。このような状況のもと、当社グループとしましては、各市場動向に応じ、消耗品及び設備品の拡販に努めました。

この結果、売上高は前年同期間比では減収であるものの、第2四半期(2010年1月1日から3月31日まで)では前年同期を上回るなど、回復基調で推移しました。一方、収益面においては、売上が回復基調であることに加え、前期に実施した事業構造改革の寄与などにより大幅に改善しました。

なお、当第2四半期連結累計期間の純損益は、繰延税金負債8億59百万円を計上したことなどにより、6億57百万円の四半期純損失(前年同期間比29.0%の純損失減)となりました。当該繰延税金負債の計上は、外国子会社配当益金不算入制度(平成21年度税制改正)の導入を背景として、当社グループとしての資金効率を検討した結果、子会社配当方針を見直し、子会社から当社への配当想定額が増額されたことによるものです。

2010年度第2四半期連結累計期間の業績

(単位：百万円)

売上高	11,772 (△9.2%)
営業利益	414 (—)
経常利益	559 (—)
四半期純利益	△657 (—)

*(%表示は対前年同期間増減率)

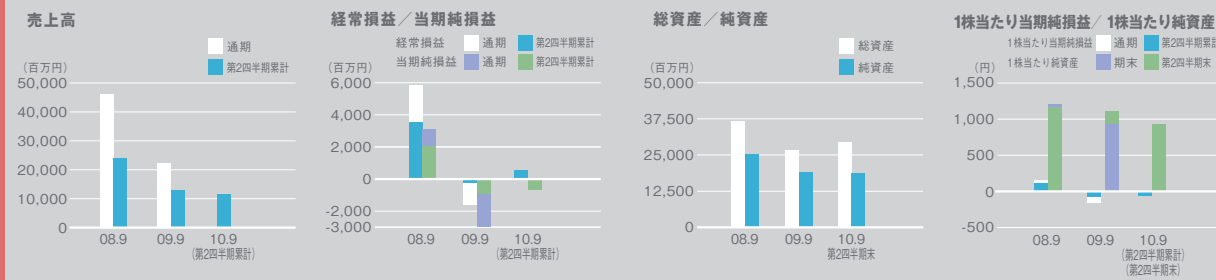
通期の見通しについて

通期の見通しにつきましては、溶接機器関連事業においてアジア地域での業績が順調に推移していることや、平面研磨装置関連事業においても受注が回復に転じていることなどから、業績は当初予想を上回る見通しであります。

このことから、通期の売上高は250億円(前期比11.4%増)、利益面につきましては営業利益が7億50百万円、経常利益が8億50百万円を予想しております。

なお、純損益につきましては、「当第2四半期連結累計期間の連結業績について」に記載の通り、繰延税金負債8億59百万円を計上したことなどにより、5億円の当期純損失を予想しております。

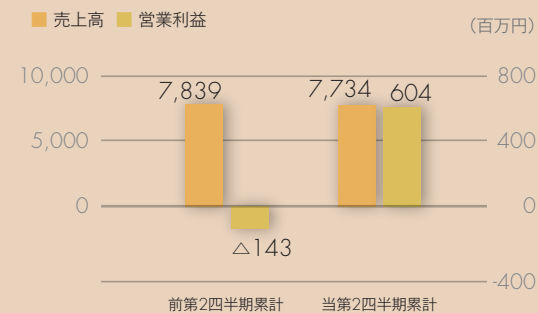
連結決算ハイライト



溶接機器関連事業

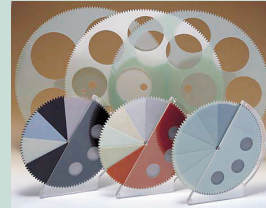


溶接機器関連事業につきましては、取引先である各国自動車メーカーが、昨年春以降、一般に生産を増加させていることや、設備投資面でも、中国及び韓国メーカーを中心として生産ラインの更新や増強が行われたことなどにより、売上は前年同期間の水準まで回復しました。また、利益面につきましても、前期に実施した事業構造改革の寄与などにより改善しました。

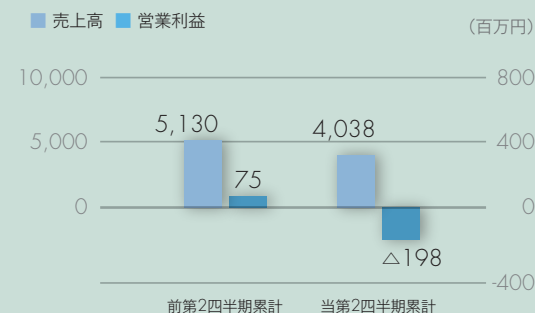


(注)：売上高については、外部顧客に対する売上高を記載しております。

平面研磨装置関連事業



平面研磨装置関連事業につきましては、取引先であるシリコンウェーハなどの基板メーカーが、エレクトロニクス製品向けの需要増から生産を増加させたことなどにより、消耗品の販売が堅調に推移しました。一方、設備品につきましては、ハードディスク業界などが積極的な設備投資を開始したことにより受注面では改善しましたが、受注から製品検収までに期間を要することから、顕著な売上増には至りませんでした。



(注)：売上高については、外部顧客に対する売上高を記載しております。

「2010 国際ウェルディングショー」に出展

当社は、2010年4月21日から24日にわたって、東京ビックサイトで開催された溶接・接合技術の総合展示会「2010 国際ウェルディングショー」に出展しました。「地球環境の改善に貢献する企業」をテーマとして、資源の有限性を意識したエネルギー効率の高い製品を展示し、大きな反響がありました。これからも、独創的な新技術の開発を通し、お客様の要望に応えていきます。

■ 軽量サーボロボットガン



コンパクトな駆動ユニットと軽量ボディを採用し、生産性や溶接品質の向上に貢献するロボットガン。耐久性とメンテナンス性にも優れ、従来比で重量40%軽減、電力使用量15%削減を実現しています。

■ トランス内蔵ポータブルガン



変圧器をガン本体に搭載することにより、電気効率を高め、省エネルギーに寄与するポータブルガン。電力使用量は従来比30%削減となっています。

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期末 (2010年3月31日現在)	前期末 (2009年9月30日現在)
資産の部		
流動資産	19,372	16,738
固定資産	10,074	9,853
有形固定資産	8,266	8,091
無形固定資産	191	199
投資その他の資産	1,617	1,563
資産合計	29,447	26,592
負債の部		
流動負債	9,093	6,920
固定負債	1,496	573
負債合計	10,590	7,493
純資産の部		
株主資本	19,236	20,087
資本金	1,925	1,925
資本剰余金	2,373	2,373
利益剰余金	16,014	16,865
自己株式	△1,077	△1,077
評価・換算差額等	△1,271	△1,740
少数株主持分	892	750
純資産合計	18,857	19,098
負債純資産合計	29,447	26,592

財務のポイント

1 資産

現金及び預金が6億90百万円、その他流動資産が6億5百万円減少した一方で、受取手形及び売掛金が23億49百万円、たな卸資産が17億4百万円増加したことなどにより、資産は、前期末に比べて28億55百万円増加しました。

2 負債

有利子負債が7億70百万円減少した一方で、支払手形及び買掛金が17億41百万円、その他流動負債が12億6百万円、その他固定負債が8億93百万円増加したことなどにより、負債は、前期末に比べて30億96百万円増加しました。

3 純資産

四半期純損失となったことなどにより利益剰余金が8億51百万円減少した一方で、円安により為替換算調整額が4億35百万円、外部株主が存在する連結子会社において純資産が増加したことなどにより少数株主持分が1億41百万円、株式相場の上昇などによりその他有価証券評価差額金が33百万円増加したことなどにより、純資産は、前期末に比べて2億41百万円減少しました。

4 自己資本

自己資本は、前期末に比べ3億83百万円減少し、179億64百万円(自己資本比率61.0%)となりました。

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期連結累計期間 (2009年10月1日から 2010年3月31日まで)	前第2四半期連結累計期間 (2008年10月1日から 2009年3月31日まで)	前期 (2008年10月1日から 2009年9月30日まで)
売上高	11,772	12,969	22,451
売上原価	8,591	10,057	18,513
売上総利益	3,180	2,912	3,937
販売費及び一般管理費	2,766	2,981	5,454
営業利益(△は損失)	414	△68	△1,516
営業外収益	202	114	294
営業外費用	57	277	371
経常利益(△は損失)	559	△231	△1,593
特別利益	—	—	191
特別損失	—	50	1,112
税金等調整前四半期(当期)純利益(△は損失)	559	△282	△2,515
法人税、住民税及び事業税	247	353	514
法人税等還付税額	—	△40	△428
法人税等調整額	860	263	259
少数株主利益	108	66	129
四半期(当期)純利益(△は損失)	△657	△925	△2,990

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期連結累計期間 (2009年10月1日から 2010年3月31日まで)	前第2四半期連結累計期間 (2008年10月1日から 2009年3月31日まで)	前期 (2008年10月1日から 2009年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	596	1,511	1,594
投資活動によるキャッシュ・フロー	294	△386	△1,843
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,070	△911	△396
現金及び現金同等物に係る換算差額	95	△235	△452
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△83	△22	△1,098
現金及び現金同等物の期首残高	3,306	4,404	4,404
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	3,222	4,382	3,306

会社概要 (2010年3月31日現在)

社名	OBARA株式会社
英文名	OBARA CORPORATION
本社所在地	神奈川県綾瀬市大上四丁目2番37号
設立	1958年12月
資本金	1,925,949,120円
主要な事業内容	溶接機器及び平面研磨装置の製造販売等
従業員数	210名(連結1,504名)
ウェブサイト	http://www.obara-g.com/

役員 (2010年3月31日現在)

代表取締役社長	持田 律三
代表取締役副社長	渡辺 俊明
取締役	小原 康嗣
取締役	春名 真人
取締役	周澤 健
取締役	田中 夏樹
常勤監査役	谷内 博
監査役	大西 倫雄
監査役	村松 建夫

(注) 監査役のうち、大西倫雄及び村松建夫の両氏は、「会社法」第2条第16号に定める社外監査役であります。

事業所 (2010年3月31日現在)

本社	神奈川県綾瀬市大上4-2-37
山梨工場	山梨県笛吹市境川町藤堂 4151
豊田営業所	愛知県豊田市寿町7-37
宇都宮営業所	栃木県宇都宮市東宿郷5-7-8
大阪営業所	大阪府池田市神田3-11-14

(注) 豊田営業所は2010年5月10日に愛知県豊田市御幸町3-5-2へ移転しております。

OBARAグループ

■ 溶接機器関連事業

韓国小原株式会社
小原(南京)機電有限公司
小原(上海)有限公司
OBARA CORPORATION USA
OBARA (THAILAND) CO., LTD.
OBARA (MALAYSIA) SDN. BHD.
OBARA MEXICO,S.DE R.L.DE C.V.
OBARA INDIA PVT LTD.
OBARA AUSTRALIA PTY. LTD.
LLC "OBARA RUS"
洋光産業株式会社

■ 平面研磨装置関連事業

スピードファム株式会社
スピードファムクリーンシステム株式会社
スピードファム長野株式会社
SPEEDFAM INC.
SPEEDFAM MECHTRONICS (SHANGHAI) LTD.
SPEEDFAM KOREA LTD.
SPEEDFAM CORPORATION
SPEEDFAM NV/SA
SPEEDFAM (INDIA) PVT LTD.

株式状況 (2010年3月31日現在)

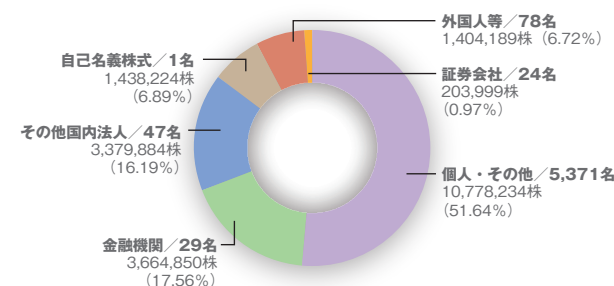
発行可能株式総数	38,000,000株
発行済株式総数	20,869,380株
単元株式数	100株
株主数	5,550名

大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
有限会社馬込興産	2,989	14.32
小原 博	2,263	10.84
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,187	5.68
小原 康嗣	611	2.93
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	593	2.84
ノーザン トラスト カンパニー (エイブイエフシー) サブアカウントアメリカンクライアント	527	2.52
株式会社三菱東京UFJ銀行	474	2.27
小原 範子	304	1.45
OBARA従業員持株会	230	1.10
吉田 史子	218	1.04

(注) 1. 上記のほか、自己株式1,438千株を保有しております。
2. 持株比率は、自己株式1,438千株を控除して計算しております。

株主分布状況



株主メモ

事業年度	毎年10月1日から翌年9月30日まで
定時株主総会	毎年12月
基準日	定時株主総会の議決権 毎年9月30日 期末配当 毎年9月30日 第2四半期末配当 毎年3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
株主名簿管理人	〒105-8574 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所 (郵便物送付先 お問い合わせ先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 TEL: 0120-78-2031 (フリーダイヤル) (受付時間: 平日9:00~17:00) TEL: 0120-87-2031 (各種書類請求専用フリーダイヤル、 自動音声案内) ウェブサイトURL http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html
同取次窓口	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店
公告方法	当社公告につきましては、下記ウェブサイトに掲載いたします。 http://www.obara-g.com/ 但し、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告を行なうことができない場合は、日本経済新聞に公告を掲載いたします。